



“ 熱中症と 空梅雨（からつゆ） ”



園長 高杉 洋史

玄海ゆりの樹幼稚園の園舎は建ててから十四年目を迎えます。既にその頃から夏の厳しさは増しており、工事で働く皆さんも水分補給や塩飴はもちろん、屋上では大型扇風機を使つての工事でしたが、何人か熱中症にかかり救急車で運ばれたことを覚えていきます。

十数年前より気温の上昇も大きく、熱中症対策マニュアルも質を上げ、外遊びの時間も短くせざるをえません。この時期のバツタやカマキリは春先に比べずいぶん育ち、子どもたちの格好の遊び相手なのですが、気温三十五度には勝てません。紫外線のこと心配です。

もう一つの心配事は水不足です。ゆりの樹ファームのサツマイモの苗は例年6月に植えるのですが、春先の気温が上がらなかつたため苗の成長が遅れたようで、手に入つたのが6月下旬でした。ところが空梅雨のため畑はカラカラ。水をかけたのですが自然の雨にはかきません。一生懸命水をやっても焼け石に水程度です。いつもの年に比べ成長が遅く、青々としたサツマイモ畑になるにはもう少し時間がかかりそうです。大雨で被害が出るのも困りものですが雨が降らないのも心配です。特に玄海ゆりの樹幼稚園の子ども達は大きな芋をたくさん収穫する日が来るのを期待しているので農業の師匠、山路さんが井戸水スプリンクラーを作ってくれました。作戦が上手くいきますように。

一方、玄関に置いてあるプランターのペチュニアは元気です。梅雨を越すのが難しい花ですが、摂氏三十五度もどこ吹く風、色とりどりに目を楽しませてくれていきます。空梅雨のおかげで園児と植えたミニトマト、ピーマン、ナスに水をやるのも毎日の習慣となり、忘れずに水をやるとナスの実の付きがいつもよりいいように感じます。一つの事象も見方次第で表にも裏にもなります。暑さにめげず水やりに励みます。プランターの花はたった一日水やりを忘れると枯れる時もあります。継続は力なのです。暑い夏といえば、いつのまにか、カニのケースの水が蒸発して、かわいそうに標本にしてしまった失敗があります。園児達と「カニさんごめんさい」を一緒にしたことでした。今年はそのようなことがないようにしっかりと、見守っていきます。

最後に自分の宣伝です。玄海ゆりの樹幼稚園のホームページに「園長先生のページ」というところがあり、その中に「園長の独り言」を始めました。ほとんどが生物のこと、特に虫さんとお花のことが多いです。玄海ゆりの樹幼稚園周囲の環境のことを知って頂けると嬉しいのです。

吉塚ゆりの樹幼稚園の年中組さんは冒険保育「玄海ゆりの樹アドベンチャーツアー」を楽しみにして下さい。





生きていくうえで大切なこと ～ゆりの樹幼稚園職員愛言葉より～

教頭 高杉 美稚子

最近よく事件が起きます。もちろん、毎年、今年
の十大ニュースが年末に取り上げられるように、どん
な年も色々なことが起ります。だから、イン、ス、ト、し
スを乗り越えられるように、他者の言動や行動で揺り
動かされて落ち込んだり、悲しくなったり、辛くなっ
たりする回数が少しでも少なくなるように、ぶれない
自分に少しでも近づけることができるように、ゆりの樹
幼稚園では多くの言葉を大切に伝えています。

誰かの言動や行動で、自分が苦しむことは、自分軸
ではなく、他人軸で生きていくことになります。それ
ではマリオネットです。そのような人生を送っては
時間ももったいないです。もちろん、時として落ち込
むことにも、意味があります。落ち込んだことで静かに
自分の感情に向き合い、自分の足りない所に気づき、そ
のこころを受け止めて、学び、成長することができれば
落ち込んだ分だけ、数倍成長できるわけですから、落
ち込んだ意味があります。だから、失敗が人を成長さ
せるのだと思います。

園児達の教育はもちろん、少しでも手前味噌なお
話になり恐縮ですが、自信をもって、私は職員の子
成に命を懸けて取り組んできたということでも過言では
ありません。初代園長、前理事長の遺志を継ぎ、物的
環境に加え、人的環境、教育内容も向上していくこ
とを決意してから四十年。園児に愛され、保護者の
方に信頼して頂き、ゆりの樹幼稚園の良さをずっと
保ち続けるには、物的環境だけではなく職員の質、
教育の質を保つことが大事だと考え続けてきました。

明るい雰囲気、仲間意識が高く、助けて助けられ
て、支えて支えあう人間関係、自分から楽しんでシ
ラックスして頑張れる自分づくり、自己研鑽、自己

成長の為の行動変化する職員と共に、更により良き
進化するゆりの樹幼稚園であり続けることが、この
ことを実現、達成するようになる、と信じているか
らです。

なんとしても、ゆりの樹幼稚園の職員には、この
幼稚園に務めてよかった、自分の人生のある時間を
このゆりの樹で過ごせて良かった、と感じてもらい
たい一心で生きてきましたが、今迄には、多くの失
敗もありました。だから自分を見つめられてよかつ
たと、今では思っていますが、当時の職員には、私
が、まだ、未熟だった為に、本当に迷惑をかけたこと
でも反省し、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

そして、それも含めて、たこや、成長の途中で大変
だと感じる時期があったとしても、振り返った時に
いい人生の時間を過ごした、と感じることが出来る
幼稚園にしたい、これからも職員で切磋琢磨し、失
敗しても、そこから学び、それを乗り越えたらどん
な自分に成長できるだろうと楽しみと生きるエネル
ギーに変え、ゆりの樹スピリッツを大切に、職員の
幸せと幼稚園の成長発展に努めていきたい、と思
います。

まずは職員が楽しんでほしい、どんな時にあって
も、楽しむことができる職員であってほしい、その
為には何でもすると当時の私は誓いました。職員が
楽しんでいけるから、園児が楽しんで、成長し、その成
長を見て保護者の方に感動して頂ける、そして我が
子に感動を伝え、園児が成長する、その姿を見て職
員が園児の成長を自分の喜びとして成長する、そん
な感動の幼稚園にする、そのことが園児、保護者達
にとっての幸せにも繋がる、と信じているから……
私の魂の叫びでもありました。

